

令和 8 年度

一般選抜 B 日程

国語

出題意図

I	恩田陸『蜜蜂と遠雷』（幻冬舎）の一部を素材とした。 本問は、回想も含む重層的な時間軸のなかで描出される作中人物の複雑な心理を正確に読み取る力を問うことを意図して出題した。 また、基礎的な国語知識を問うために、適切な語句を補充する能力や（問二、九）、語彙の意味の知識（六）、文学史の知識を問う問題も（問八）出題した。
II	本村凌二『馬の世界史』（中央公論新社）の一部を素材とした。本問は、歴史的文脈のなかで、一つの対象について深くフォーカスしてゆくための論理的手法が用いられた文章を正確に把握する力を問うことを意図して出題した。また、問二は文の流れを繋ぐ接続詞の理解、問六は四字熟語を問う問題、問九は文脈理解を問うものであり、いずれも国語の基礎力を測るものである。
III	熊倉千之『日本人の表現力と個性—新しい「私」の発見』（中央公論社）の一部を素材とした。本問は、論理的な文章を精読し、語句の正確な理解に基づき、筆者の主張や論理の展開を的確に把握する能力を判定することを意図して出題した。 問一、問四、問五は文脈における指示内容や理由説明、および具体例と抽象的な概念との対応関係を正確に読み取り、本文の記述に基づいて論理の整合性を判断する能力を問う問題である。問二、問三は、漢字の知識や語句の辞書的な意味に加え、文脈に応じた適切な語彙の運用能力を判定するための問題である。 また、問六および問九は、提示された比較対照の記述を分析し、文章の要旨や筆者の主要な提言を多角的に捉え、異なる概念の対比構造を正確に整理・理解する能力を問う問題である。さらに、文章全体の流れや論理的な一貫性を踏まえ、空欄を補完する適切な語句を推論する力を判定するものとして問七、問八を出題した。

